

## 【施策12】 自然に親しみ、自然を尊重するところをはぐくみます

(施策の現状)

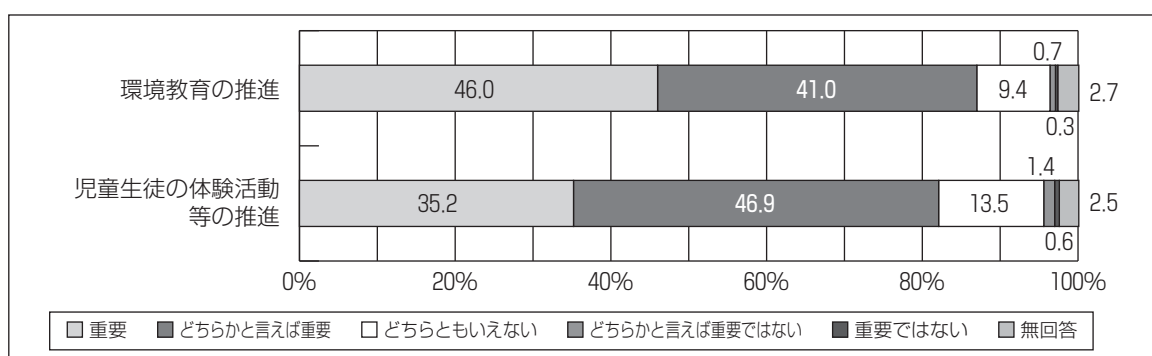
都市化や子どもの遊びの多様化など、社会の変化を背景として、子どもたちが生活の中で自然と触れ合う機会は減少しています。また、地球温暖化が深刻化する中で、環境を保護するという観点から、子どもたちが自然環境について理解を深める必要性は高まっています。

本県では、生物指標を用いて河川の水質状況調査を行う「せせらぎスクール<sup>73</sup>」や二酸化炭素排出量の削減目標を定める「福島議定書<sup>74</sup>」について、各学校が積極的に取り組んでいます。

一方、本県は自然環境に恵まれているにもかかわらず、中学3年生を対象とした平成20年度の全国学力・学習状況調査<sup>32</sup>結果によれば、海、山で遊んだことがある生徒の割合(78.5%)は、全国平均(77.2%)とあまり変わらないという傾向が見られます。

県民アンケートでは、「環境教育の推進」や「児童生徒の体験活動等の推進」について、「どちらかと言えば」も含めて重要であると答えた県民の割合は、それぞれ87.0%、82.1%であり、県民が特に重視しているという結果が出ています。

〔各施策の今後の重要性について〕



(基本的方向性)

- 子どもたちが、自然と触れ合う体験を通して、自然や生命の尊さに気づき、豊かな感性をはぐくむことができるよう、自然体験活動を進めます。
- 児童生徒が、地球温暖化問題への理解を深めるとともに、本県の自然環境を理解し、環境の保護に向けて主体的に考え、行動できるよう、発達の段階に応じた環境教育を推進するとともに、実践的な取り組みを進めます。

<sup>32</sup> 全国学力・学習状況調査……27ページ参照。

<sup>73</sup> せせらぎスクール……環境省が市民に呼びかけ実施している生物指標を用いた河川の水質状況調査。本県では、「せせらぎスクール」と称している。

<sup>74</sup> 福島議定書……省エネルギーのために県が実施している施策。電気及び水道の使用による二酸化炭素排出量の削減目標を定め、実践する取組み。各学校や事業所等が知事と締結して取り組む。

### 【今後の取組み】

- 豊かな自然に親しむ体験活動の推進  
総合的な学習の時間等を活用した野外活動、自然の中での集団宿泊活動などにより自然体験活動の充実を図ります。
  
- 低炭素<sup>10</sup>・循環型社会<sup>75</sup>に対応した環境教育の推進  
環境教育に関するさまざまな実践事例を活用し、教科や総合的な学習の時間等において郷土の自然や身近な環境問題に関する学習を充実させ、学校が「せせらぎスクール<sup>73</sup>」や「福島議定書<sup>74</sup>」などの環境保全や省エネルギーに関する実践的な事業に積極的に取り組むことを促すなど、発達の段階に応じた環境教育を推進します。

### 〔施策12 指標〕

指標名	現況値	目標値	備考
「せせらぎスクール <sup>73</sup> 」への延べ参加者数（公立小・中・高等学校）	H20年度 5,448人	H26年度 増加をめざす	モニタリング指標
福島議定書 <sup>74</sup> の参加学校数の割合（公立幼・小・中・高・特別支援学校 <sup>15</sup> ）	H21年度 66.6%	H26年度 上昇をめざす	モニタリング指標

<sup>10</sup> 低炭素社会……7ページ参照。

<sup>15</sup> 特別支援学校……15ページ参照。

<sup>73</sup> せせらぎスクール……53ページ参照。

<sup>74</sup> 福島議定書……53ページ参照。

<sup>75</sup> 循環型社会……狭義には、廃棄物の発生を抑制し、再使用・リサイクルを行い、廃棄量を少なくし資源として循環利用する社会。広義には、自然における適正な物質循環を可能にする人間社会の在り方。